

五

なら七口

高畑の社家町へ 高畑から 柳生方面へ

「柳生街道」は、柳生藩1万石の御料地と奈良町を結ぶ道です。れっきとした「街道」でありながら、いまでは林間を行くハイキングロードとして有名ですね。剣豪の気分になりながら歩くのも一興かも!?

さて、20kmを歩き切るのがハードなら、平安時代の庭と重要文化財の楼門が美しい円成寺まで。あるいは、バスで柳生方面に着き、下って奈良町に入る道のりなら少しは楽かもしれません。このマップでは、柳生街道に入る高畑口までの見どころを紹介します。柳生街道そのものの道については、安全のための詳しい「近鉄てくてくマップ③④」や奈良市の「柳生街道」ガイドブック等をご利用ください。

行程の目安

近鉄奈良駅

(およその直線距離で測定)

起点

- 柳生街道入り口まで 約4km
- 円成寺まで 約12km
- 柳生バス停まで 約21km

①中新屋町

もと元興寺境内中院の余地で、寺内中之通路であったという。宝徳3年(1451)の火災で伽藍が焼失したあと、天正～永禄年間に新たに町屋となったので新屋町と呼ばれる。

②奈良町物語館

明治初期に建てられた伝統的な町家を改修・再生。奈良時代創建の元興寺金堂の礎石を見ることができる。

③吉田蚊帳

古くから麻織物の産地として有名だった奈良。明治～昭和初期には蚊帳が全国に販路を拡大した。1921(大正10)年創業のこちらの店は登録有形文化財。

④芝突抜町(しばつきめけ)

旧名を弥勒辻子といい、俗に狐辻子。

⑤毘沙門町(びしゃもん)

信貴山の本尊であった毘沙門天が兵乱時に持ち出され、この付近で発見されたため毘沙門堂に安置したと云う。

⑥奈良市ならまちセンター

旧・奈良市役所。もっと前は、柳生藩の南都屋敷跡。

⑦鶴町(かさざき)

かつて南鶴院という寺があったという。この辺りは昭和30年頃には多くの店が立ち並び大変賑わっていた。

⑧公納堂町(くのどう)

元興寺禅定院の公納所があったのにちなむ。

⑨福智院町

福智院の前身は736年(天平8年)に玄昉が創建し、興福寺の僧が再興して福智院に改名、その後叡尊が再建した。鎌倉時代の南都の代表的な地藏像がある。重要文化財。当時は薪能と春日若宮祭に出演する能役者や若宮祭に参勤する大名の役人衆のために宿泊所を提供する宿割町であった。

⑩今西家書院

室町時代における初期の書院造りの遺構。元は興福寺大乘院家に仕える福智院氏の居宅であった。角柱・障子・襖など書院造りの要素は、現代和室の様式へと広く受け継がれている。重要文化財。

⑪酒造店

明治創業。奈良酒 南都諸白の伝統を今に伝える。利き酒も楽しめる。

⑫旧名 上・中・下清水町

春日原始林からの清水が湧き、水が良いために酒造や醤油製造もされた。かつては東山中、古市、八嶋方面の人々を相手に商店が連なっていた。



山道は奈良市の「柳生街道」ガイドブック、「近鉄てくてくマップ③、④」等で歩いてね。



出典：地理院地図に目印や線を追記して掲載

⑬青田家住宅

築150年を超える重厚な町家。奈良市指定文化財。丸太格子や出格子の構え、木瓜型の虫籠窓が見られる。

⑭酒造店

春日原始林山麓の名水地「清水町」において、江戸時代以前に創業した酒造業「横田屋」を、大阪堂島の米商八木千之助が明治10年に継承し、今日に至る。

⑮頭塔(ずとう)

土壇からなる非常に珍しい奈良時代の塔。僧玄昉の頭を埋めた墓との伝承がある。767年に東大寺の僧・実忠が、良弁別当の命により造ったとされる。〈見学は前日までに要予約〉

⑯高畑町

春日大社の社家町として知られる。閑静な住宅街で、文豪が集った地域として有名。一部が、世界遺産「古都奈良の文化財」の緩衝地帯(バッファゾーン)、歴史的風土特別保存地区(春日山地区)、国史跡「興福寺旧境内」、奈良公園、奈良町都市景観形成地区に含まれる。



⑰割石

地名・破石町(わりいし)の由来となった石。〈民家にあるので見学は事前に要予約〉伝説1、西大寺の東塔の心礎石をつくる時、酒三十余石をこの石にかけて割った伝説2、藤原氏・吉備氏・阿部氏の境界を示す境界石。石の線が境界で東南は藤原氏、南西は吉備氏、東北は阿部氏とか。町の人々はこの石に触れると祟りがあるとした、という。

⑱武内赤穂神社

高畑にあった社家の家々を記した手書きの額が興味深い。式内神社で二月堂のお水取りの際に読み上げられる『神名帳』にも「赤穂明神」とある。

⑲志賀直哉旧居

白樺派の小説家・志賀直哉の旧居。高畑サロン。自ら設計に携わり昭和4年から9年間を過ごし、『暗夜行路』を執筆した。奈良県指定有形文化財



⑳空也上人居跡/隔夜寺

隔夜堂は空也上人が開祖とされる。長谷寺に隔夜参りした修行僧がここを宿坊とした。鎌倉時代に入ると、時宗の開祖である一遍上人が修行したという。●隔夜参り：1夜交代で奈良と初瀬(長谷寺)を行き来し、双方の社寺に参詣し、それぞれの宿坊に泊まる修行を1000日以上続ける。平安時代から大正までの長い間行われていた。

㉑白乳神社(しらち)

女性の腰から上の婦人病の治癒にご利益のあるという神様。奉納絵馬が明解。

㉒赤乳神社(あかち)

腰から下の婦人病の治癒にご利益の神様

㉓旅館

街道ならでは。いよいよ山道。



七口メモ

●春日大社の社家町：高畑

神護景雲二年(768)鹿島の武甕槌神を奈良の御蓋山に迎えた際、お供をしてきた中臣時風・秀行に、神様より「この榊の枝の落ちた所に住むがよい」とのお告げがあった。投げられた榊の落ちた場所の一つは「辰市郷」(平城京の西市付近)。当時の繁華街だが春日社からは約5kmの所。中世に入ると、社務も多忙となり大社の近くの高畑に移住するようになり、神職らの屋敷がたち並ぶ町となったとの話も。

●柳生一族ヒストリー

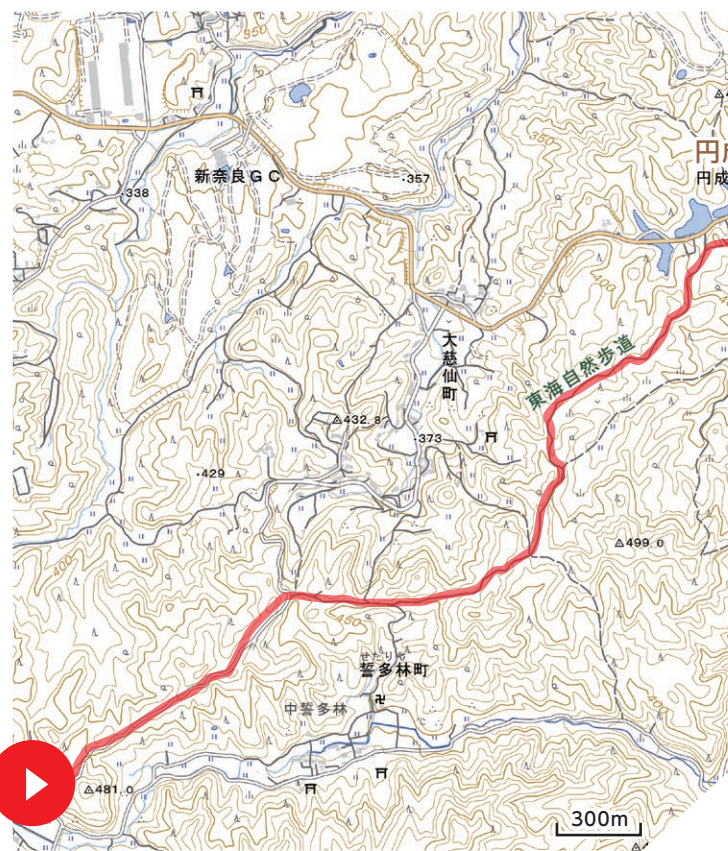
一万石の譜代大名。武士の人数は40名ほど。徳川家の剣術指南役。南朝方として北条氏と戦った功により後醍醐天皇から柳生を賜る。柳生宗厳は松永久秀に仕えたが、秀吉の時代に入ると一時零落。その後、家康の前で「無刀取り」を披露し、五男の宗矩が徳川家に迎えられた。関ヶ原の戦いでは大和の武将たちの調略に奔走。大坂冬の陣では二代将軍秀忠の身辺警護を務めた。宗矩の長男が時代劇で有名な柳生十兵衛三厳。

●参勤交代ないのも楽じゃない？

柳生藩は剣術指南役として江戸に常駐する定府大名。参勤交代を免ぜられたため、藩主が柳生へ戻る機会がなく、また、江戸と地元の藩士には交流が少ないため次第に溝ができていったという。幕末にはその溝が如実となり、江戸詰め(＝佐幕)と、京の情勢を知る地元の藩士(勤皇)の間で激しい争いが起きた。

●柳生藩の知行の不思議

柳生藩の領地は大和盆地の北東を中心に山城国の一部も含めて25ヶ村に渡る。吉野に下る後醍醐天皇を奉じて笠置から道案内した伝説が村に残るなど、何らかの縁があるのも興味深い。なお、柳生藩の南都屋敷は現在の「奈良市ならまちセンター」(元・奈良市役所)にあった。



出典：地理院地図に目印や線を追記して掲載

歩行記録

令和 年 月 日 () : ~ :

同行者

休憩場所

掛かった費用 交通費 円



発行：奈良市伝統文化いきいき実行委員会 奈良町にぎわいの家管理共同体

本事業は令和2年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)の補助を受けて実施しています。



文化庁